

いたのか、調査したい。次にまどの作品の特徴を精査し、いくつかのグループに分類し、また年代を追ってその詩に現れている特徴がどのように変遷していったのか考察したい。また、まど作品にはしばしば登場する「神」や「天」はどういった概念なのかを明らかにしたい。

いけだ あきこ／台湾大學 日本語学科大学院2年

まど・みちお

— その人と作品の特徴

池田 晶子

まど・みちおは小学校の国語教科書に多くの詩を提供しており、多くの日本人は知らず知らずのうちに彼の詩に接し、その積極的で愛に溢れる世界観の薫陶を受けている。しかし、この詩人に関する研究は実のところまだごく少数の研究者によってしか行われていない。

わたしは、この日本人の思想形成に潜在的に大きな影響を及ぼしているであろうこの詩人の作品の特徴を確認し、彼自身の体験がどのように彼の思考や感受性を形作っていったのか調査することによって、まど・みちお独自の世界観を把握したいと考えた。

まず、北原白秋をどのように受容し、主に擬音語・擬態語と詩語、童謡論などから探りたい。またどのように白秋をはじめとする『赤い鳥』の影響下から遠ざかっていったのか『民俗台湾』に発表した散文などから探りたい。またまどが10歳から34歳までの24年間を過ごした台湾で、まどが何に接し、何を感じて